

「やりとり力」と「質問力」を高める ②

テレビ会議を活用した授業 2018②

AKB Future Project 推進委員会

今年度の取組をふりかえって

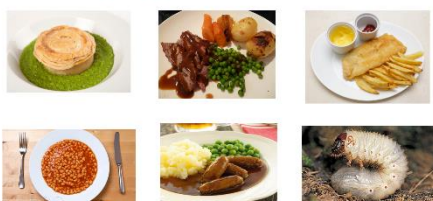
今年度も専用のテレビ会議システムを使用し、オーストラリアのアーミデール高校と18回のテレビ会議セッションを行いました。4回生の9回、5回生の4回、6回生の1回に加え、3回生は4回のセッションに参加しました。



3回生たちも頑張りました

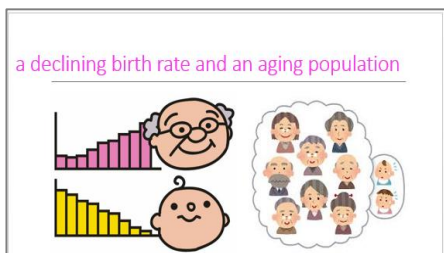
今年度も毎回のセッションは、日本側、オーストラリア側が各回のテーマに

Australian Dinners



AUS 作成のスライド。幼虫は先住民の常食。

もとづき作成したプレゼンテーションから始め、その後 Q&A とフリートークが続きました。「学校生活」、「家庭生活」、「習慣やマナー」、「ポップカルチャー」などのテーマに加え、今年は「社会問題とその解決策」のような難しめのテーマにも挑戦しました。



3回生作成の「社会問題」のスライド

プレゼンテーション後の「即興のやりとり」

このようなテレビ会議システムによる交流活動を通して、プレゼンテーションソフトを使った視覚資料作成や発表のスキルは確実に向上しました。今年度はさらに、「質問力」と「やりとり力」の向上を目指し、毎回のセッションの前には、

本校の「SGH ルーブリック」にある「プレゼンテーション力」と「質問力」の重点事項を確認しました。そして終了後には各生徒が「ふりかえり」を行い、自己評価を提出しました。準備した発表の後の「即興のやりとり」については、達成感よりも、課題を感じた生徒の方がまだまだ多かったのですが、今後目指すべき目



「だるまさんが転んだ」説明のために実演

標を各自が確認できたのは、意義あることでした。

今後に向けて

今年度は専用のテレビ会議システム以外にも、パソコンのビデオチャットソフトを使って外国と交流する機会もありました。SGH 指定は今年が最終年度ですが、パソコンとインターネット回線があれば、今後このような活動が可能です。生徒の英語コミュニケーション力向上のために、これからもあらゆる機会を活用したいと思います。



Skype でジョージアの生徒と交流

生徒の感想より

- ・私たちの英語が伝わってよかった。ただ、発表後には英語を聞き取れず、同じような反応しかできなかったのが残念だった。次回はもっと会話したい。
- ・オーストラリア人は思ったよりも日本人のようにシャイで驚いた。今年来た留学生と話したときもそうだったが、外国人が皆積極的というわけではないらしい。

・コミュニケーションの「瞬発力」はすごく大切だと思った。

世界の中での日本の立場や役割を理解し、日本の魅力を再発見し、情報発信する力				
視点	S	A	B	C
プレゼンテーション力	会場内に響く声で、相手に分かりやすい速さに加え、強調をつけて発表できる。	会場内に響く声で、相手に聞き取りやすい速さで発表できる。	時々早口になったり、声小さくなったりするが、全体的に相手に聞こえる声で発表できる。	話す速さや声の大きさに調整はあるが、自分なりの話し方で発表できる。
	アイコンタクト・ジェスチャーを上手に使い、視線を合わせ、効果的なジェスチャーを用いることができる。	相手に視線を合わせ、適切なジェスチャーを用いることができる。	原稿を時々見ながら発表し、話に合わせてジェスチャーを用いることができる。	原稿を確認しながら発表し、必要に応じてジェスチャーを加えることができる。
質問力	自発的に、話された内容に関する質問ができ、発問的な疑問や議論を引き出す質問ができる。	自発的に、話された内容について不足していた情報や、新たな情報を引き出す質問ができる。	自発的に、内容について確認する質問や、トピックに関する質問をすることが出来る。	内容について確認する質問や、トピックに関する質問をすることが出来る。
「プレゼンテーション力」と「質問力」のルーブリック				